

看護師の経験を生かして患者りと面談し、セカンドオピニオン診察に付き添う「医療コーディネーター」として活動している。昨年、株式会社「栄患ナース」を設立。「病院から独立した中立の立場で、患者さんが納得する結論を出すお手伝いをしたい」と話す。病院の看護師だった時に担当する患者がすぐに代わり、接する時間も限られることに疑問を感じた。患者らの会合で「人質」に取られているように病院には本音が言えない」「転院話をすると悪く思われる」と

本 岩 本 ゆりさん

この人



「かかりつけ看護師」になれば

言われ、ショックを受けた。二〇〇三年に病院を辞めて個人開業。会社化した現在は、臨床経験五年以上の看護師二十三人を認定コーディネーターとして抱え、これまでに延べ二百五十件を担当した。「患者さんとその家族の「かかりつけ看護師」になれば」。東京都足立区の自宅に、夫で代表の貴さん(三〇)と事務所を置く。三十六歳。(安藤恭子)